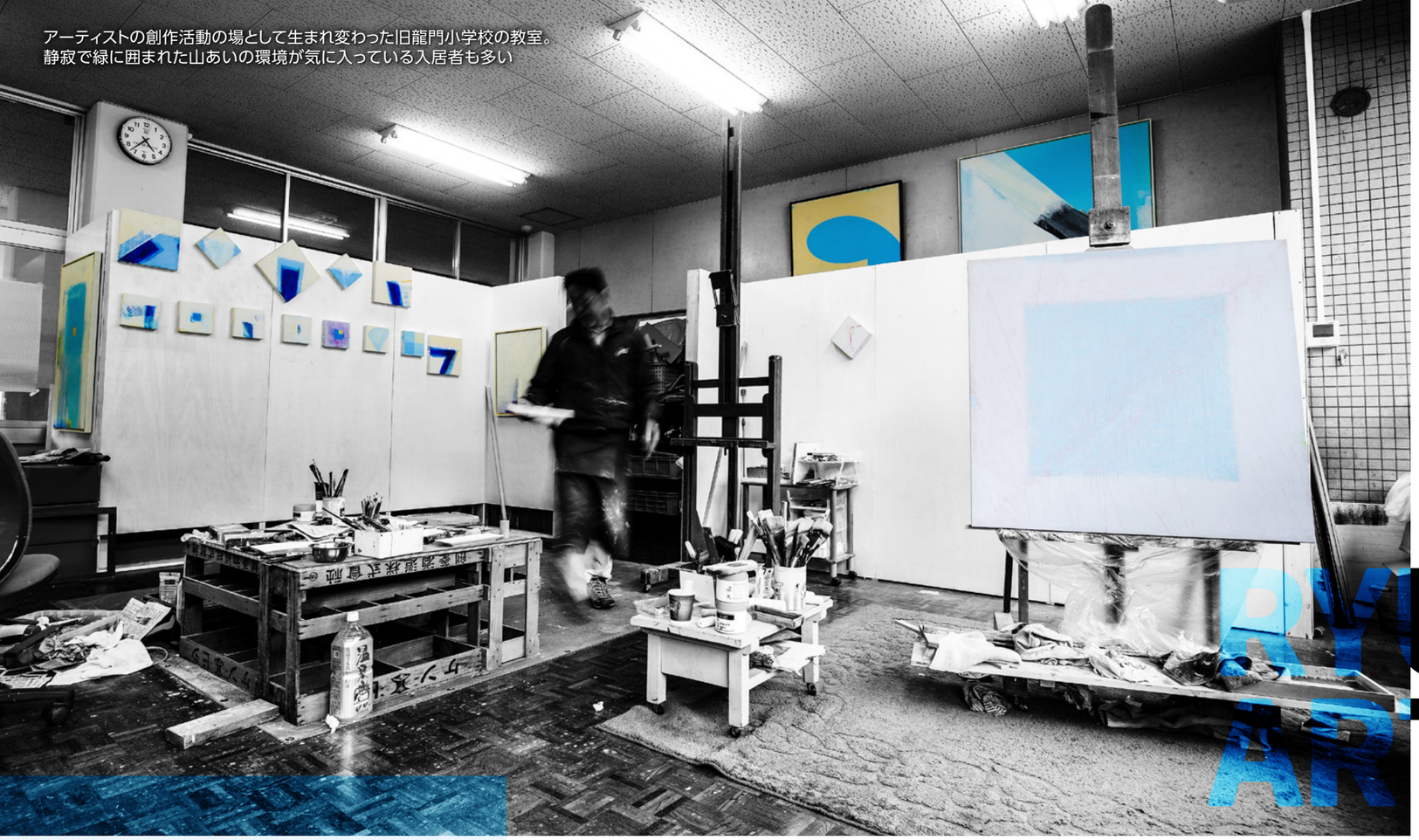


アーティストの創作活動の場として生まれ変わった旧龍門小学校の教室。
静寂で緑に囲まれた山あいの環境が気に入っている入居者も多い

龍門地域活性化支援センター「アーティストスタジオ」

学び舎がアートの拠点に―

廃校になった龍門小学校跡では、国内外で活躍するアーティストが入居し、創作活動を行っています。今月号では、その成り立ちと入居者たちの取り組みを紹介します。

【問い合わせ先】 地域振興課 ☎0968(25)7250

RYUMON ARTIST STUDIO

美術館に様変わりした思い出の旧校舎

竜門ダムを見上げる場所にある旧龍門小学校。児童減少を理由に平成25年、地域住民に惜しまれながら閉校しました。

思い出の詰まった旧校舎が〝美術館〟に様変わりしたのは、3年後。平成28年11月の「菊池アートフェスティバル」です。当時、地域おこし協力隊だった橋本眞也（はしもとしんや）さんが「菊池をアートで活性化したい」と企画したのがきっかけでした。自然豊かな風景が「芸術の里」のイメージにピッタリだったといいます。

当日は県内外から約70人のアーティストが参加。出品数は300点を超え、教室や廊下には絵画や立体作品など、さまざまな作品が並びました。

他にもアートパフォーマンスや作品作りを体験できるワークショップなど、多種多様なアート作品が一堂に会し、4日間で来場者は6千人を超えました。

「学校の文化祭のようで懐かしい気持ちになれた」「閉校して寂しくなった校舎がにぎわう姿を見て、とてもうれしかった」と来場者からの評判も上々。山あいの地区に集客を果たしたアートフェスティバルは廃校活用の事例としても注目を集めました。

地域と共に歩み続けるアーティストスタジオ

旧校舎を常に人が出入りする場所にしたいと、平成30年から「アーティストスタジオ」に生まれ変わりました。現在は7人のアーティストが創作活動を行っています。

入居者の中には市民向けの絵画教室を開いたり、市教育委員会が主催する「キクロスまつり」でワークショップを行ったりするなど、住民との交流も進んでいます。

アーティストたちが地域貢献の一環として企画した「オープンスタジオ」も好評です。当日は全員が集合し、作品の紹介や活動報告を行います。

多くの人たちに親しまれた龍門小学校は、形を変えても地域の皆さんと歩み続けています。

ワークショップを行う入居アーティスト。
交流を楽しみにする住民も多い

菊池アートフェスティバルでは、思い出の校舎が美術館に様変わりした

地域に親しまれた旧龍門小学校。サテライトオフィスも併設している

旧龍門小学校の歩み

明治7年11月 ■公立龍門小学校設立
昭和33年8月 ■菊池市立龍門小学校に改称
昭和45年4月 ■現在の場所に龍門小学校が移転
平成25年3月 ■児童減少により閉校。138年の歴史に幕を下ろす。

閉校式の会場に設置されたタイムカプセルの受け付けポスト。埋められたタイムカプセルは2033年に開封される予定です。

平成27年6月 □「集落・定住支援センター」設立
平成28年11月 □菊池アートフェスティバルvol.1開催
平成29年11月 □菊池アートフェスティバルvol.2開催
平成30年5月 □「龍門地域活性化支援センター」に名称を変更。アーティストスタジオ、サテライトオフィスを開設する。

RYUMON ARTIST STUDIO

アーティストファイル

国内外で活躍する7人のアーティストの創作拠点である龍門地域活性化支援センター「アーティストスタジオ」。入居者たちの作品や表現に対する思いを紹介します。（敬称略）

01 井上あや

さまざまな素材をミックスした混合技法を得意としている抽象系のアート作家。にじみの魅力を存分に演出する水彩表現も得意としている。国画会最高賞、くまもと描く力大賞。

定職がなかったので、生きていくために絵を描き、英語を翻訳し、資格取得に必死になってきたという。

英検1級、全国通訳案内士の資格を持つ。今年3月まで菊池農業高校、4月から菊池高校で教鞭を執っている。

Feel like wine?
井上あや

02

景（大地）
内田勝弘

内田勝弘（うちだかつひろ）

自然との感応を、青を主観に明るい色彩と広がりのある空間で抽象的に表現している。「絵づくりしない」「見せ場を作らない」という、師・坂本善三（さかもとぜんぞう）の言葉を肝に銘じ、表現を制限。シンプルな造形で制作する。

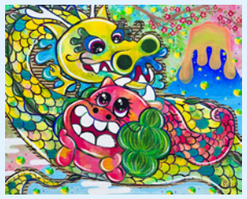
自然界に存在しない正方形を構成の出発点とし、感じたことを素直に積み重ねて創作を進めている。

03 ERI

子どもの龍神をテーマに絵を描く。それぞれの絵に見た人が元気になるメッセージを込めている。

龍神が多くの人にとって身近な存在であってほしいという願いを込めて、丸くて優しい顔の龍たちのことを「龍神フレンズ」と名付けた。

龍神フレンズたちがほんの少し、見る人の幸せの手伝いをすることができればと願いながら、制作活動を続けている。



龍神フレンズ　ひとやすみ
ERI

04 しまうちみか

崇城大学大学院芸術研究科修了後、龍門アーティストスタジオを拠点に活動中。近年は地方に残る民間信仰や風習に興味を持ち、自分なりに解釈して再構成するように制作している。

全国各地で個展やグループ展を多数開催。上海やアメリカでもアーティスト・イン・レジデンス（一定期間滞在しながら作品を制作）を行った。

写真／加藤健

来訪神のシリーズ
Come and go
しまうちみか

05 つん

幼少期から自身の中に存在しているアニミズム的思考によって生まれた精神世界を段ボールや粘土、アニメーションなどで表現。「あなぐまち」は生と死との対峙。作者にとっての闇の中の一筋の光である。

今年、「第27回岡本太郎現代芸術賞（TARO賞）」で岡本太郎賞を受賞した。

今日も「あなぐまち」で生きていく
つん

06

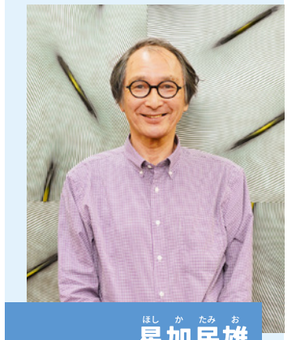
daft pink
アートホーリーメン／原口 勉

アートホーリーメン／原口 勉（はらぐちつとむ）

アートホーリーメン名義での活動後、原口勉としてポップxアプロプリエーションな絵画を制作。近年は台湾での個展やアートフェアへ活動領域を拡げる。

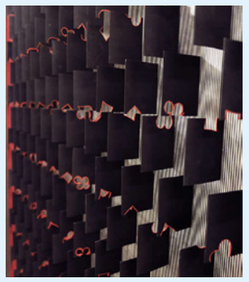
日本と西洋の史的な呼応を組み替えながら、POPであること、そして世界各地の意匠やキャラクターを取り込みながら日本から世界を俯瞰する視点で制作している。

07 星加民雄（ほしかたみお）



現代社会をリアルタイムに表現する錯視アーティスト。波動をテーマとする「躍動するトランプ -四つ葉のクローバを探せ」、「時空への扉」などが代表作。国内での発表活動に加え、フィンランドの国際展でも高い評価を得ている。

一方、錯視効果のラウンドアバウト交通システムへの応用展開にも関与し、特許を取得している。



躍動するトランプ
四葉のクローバーを探せ
星加民雄

Interview | インタビュー

アーティストの作品に触れてほしい

原本和江（はらもとかずえ）さん（長野）

龍門小学校跡で開催された第1・2回アートフェスティバルに参加しました。旧校舎が美術館のようになり、とても新鮮で楽しかったことを覚えています。

現在は、入居するアーティストさんの絵画教室に通ったり、うちの庭で一緒にバーベキューをしたりするなど、楽しく交流しています。

アトリエを特別に公開する「オープンスタジオ」も毎回楽しみにしていますね。菊池でアートに触れる機会は少ないと思います。ぜひ市民の皆さんにスタジオに来て、アーティストの作品を見て、知ってほしいですね。

アーティスト7人が勢揃い！

第5回 龍門オープンスタジオ 開催！

今年も入居アーティストによるオープンスタジオを開催します。当日はスリッパや上履きをご持参ください。皆さんのご来場をお待ちしています。

と き 5月18日㈯ 午前11時～午後4時
ところ 市龍門地域活性化支援センター（旧龍門小学校）
問い合わせ先 つん（Ⓜinfo@ohisama-detekoi.com）